

ウニ類の生殖シーズンの人為的調節

キーワード： 発生・生殖 ウニ 水産資源 海洋生物研究 理科教育

人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系、湾岸生物教育研究センター

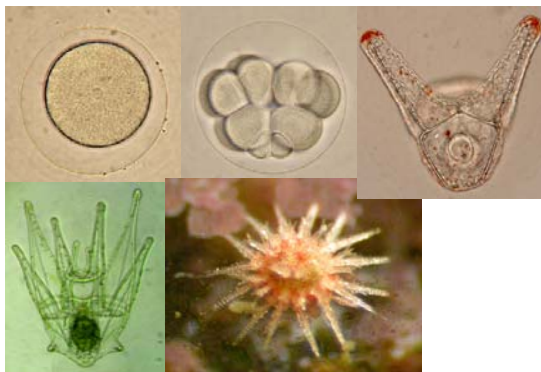
専門分野 発生生物学

清本正人

E-mail: kiyomoto@cc.ocha.ac.jp URL: <http://marine.bio.ocha.ac.jp/> TEL:0470-29-0838

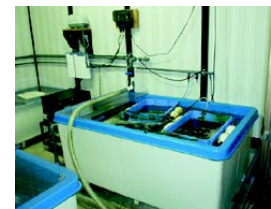
- ・ウニ類の卵は研究材料や理科教材として、広く使われています。しかし、産卵期が決まっているので、いつでも使うことが出来ませんでした。
- ・湾岸生物教育研究センターでの研究により、バフンウニの産卵期を調節することが可能になりました。

受精や発生の実験材料として
重要なウニの卵や幼生

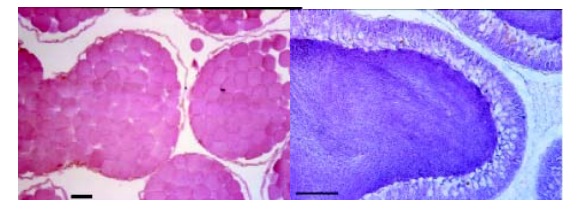


しかし、天然のウニ
の産卵期は短い！

バフンウニ 2～3月
ムラサキウニ 7～8月
アカウニ 11月



バフンウニを半年から1
年程度、環境を制御す
ることで任意の時期に成
熟させることが可能



生殖巣に充満した卵と精子